

国土交通省港湾局

「新たな海辺の文化の創造研究会」の構成

1. 設置の目的

海辺は、多様な生物が生息・生育する空間であるとともに、人々の生活の場でもある。人はこの貴重な空間を利用・保全し、自然と共生する我が国の文化・歴史・風土を形成してきた。

しかし、海辺は、人為的な諸活動により、その環境が影響を受けやすい空間でもある。このため、経済の発展等により人の活動が活発になるにつれて海辺の環境は悪化し、また、海辺と生活との結びつきも希薄になってきている。

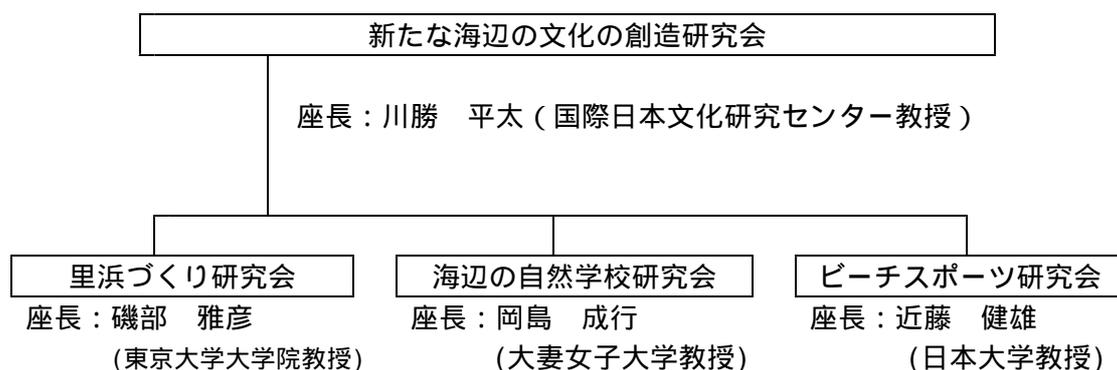
この貴重な空間は良好な状態で次世代に継承していくべきものである。しかし、海辺への人為的影響が避けられない以上、人の手により積極的に海辺を良好な状態に再生・保全していくことが必要である。また、この際には人と海辺との関わり方が重要である。これは行政のみで実現できるものではなく、多様な主体の協働が必要である。

このような認識から、「人と海辺の関わり方を再検討」し、「人と自然が共生した新たな海辺の文化を創造」し、「多様な主体の協働による海辺づくり（『里浜』づくり）」を進めていくことを目的として、「新たな海辺の文化の創造研究会」を設置し、「社会が目指すべき海辺の姿」、「人と海辺の関わり方（海辺の文化）」、「多様な主体の協働により目指すべき海辺の姿を実現するための具体的方策」について検討する。

里浜：適切な人為的な管理により人為的な活動と自然環境の持続的調和が保たれた海辺

2. 研究会の構成

「新たな海辺の文化の創造研究会（全体研究会）」の中に、「里浜づくり研究会」、「海辺の自然学校研究会」、「ビーチスポーツ研究会」を設置する。



3. 全体研究会の概要

- ・ 新たな海辺の文化の創造の必要性
- ・ 実現すべき「海辺の文化」、「里浜」の姿の明確化
- ・ 各部会の活動の考え方・施策の方向性の統一

新たな海辺の文化の創造研究会 委員

(敬称略)

座長：川 勝 平 太（国際日本文化研究センター教授）
委員：磯 部 雅 彦（東京大学大学院教授）
岡 島 成 行（大妻女子大学教授）
近 藤 健 雄（日本大学教授）
清 野 聡 子（東京大学大学院助手）
佐 伯 美 香（ビーチバレー普及活動家）
細 川 恭 史（国土技術政策総合研究所部長）
宇 多 高 明（国土技術政策総合研究所研究総務官）

4. 里浜づくり研究会の概要

研究会の検討事項

- ・「里浜」の概念整理
- ・「里浜」づくりを促進するためのシステム
- ・モデル地区における検討、評価
- ・計画段階からの市民参加型海辺の整備・運営の進め方についての指針の作成
- ・ボランティア・サポート・プログラムなど地域住民・NPOを主体とした海辺の管理の進め方

里浜づくり研究会 委員

(敬称略)

座長：磯 部 雅 彦（東京大学大学院教授）
副座長：近 藤 健 雄（日本大学教授）
委員：清 野 聡 子（東京大学助手）
小 島 あずさ（クリーンアップ全国事務局代表）
小 埜 尾 精 一（三番瀬研究会代表）
齋 藤 潮（東京工業大学大学院教授）
池 田 薫（大分県土木建築部参事）
諸 星 一 信（国土技術政策総合研究所室長）
上 島 顕 司（国土技術政策総合研究所室長）
鳥 居 謙 一（国土技術政策総合研究所室長）

5. 海辺の自然学校研究会の概要

研究会の検討事項

- ・人々が海辺の自然とのふれあい体験を通して、環境について学習し、環境保全意識を醸成するための場づくりの進め方
- ・海辺の自然学校の存在意義・使命、活動内容、運営形態、学習プログラム
- ・モデル地区の設置、評価
- ・指導者養成システム
- ・海辺の自然学校ネットワークの構築
- ・自然学校経営者支援

海辺の自然学校研究会 委員（案）

（敬称略）

座長：岡島 成行（大妻女子大学教授）
副座長：近藤 健雄（日本大学教授）
委員：浅井 信（館山市観光協会 観光プロデューサー）
辰野 正弘（NPO 法人 たてやま・海辺のまちづくり塾 理事長）
三瓶 雅延（沖ノ島サンゴを見守る会 代表）
ジャック・T・モイヤー（海洋生態学者）
川嶋 直（社団法人日本環境教育フォーラム 理事）
佐藤 初雄（NPO 法人 自然体験推進協議会 副代表理事）
中根 裕（株ツーリズム・マーケティング研究所主席研究員）
小谷 隆亮（大洗町長）
勝海 務（館山市助役）

関係行政機関：岩瀧 清治（国土交通省港湾局環境整備計画室長）
難波 喬司（国土交通省港湾局海岸・防災課海岸企画官）
坂巻 健太（国土交通省総合政策局観光部旅行振興課課長補佐）
小池 剛（国土交通省河川局海洋開発官）
調整中（文部科学省）
牛場 雅己（環境省自然環境局総務課自然ふれあい推進室室長補佐）

6. ビーチスポーツ研究会の概要

研究会の検討事項

- ・ビーチスポーツ振興の意義
- ・ビーチバレーを代表例として多様なビーチスポーツの振興を通じた海辺の利用の促進方法
- ・それを通じた地域の交流の促進方法、里浜づくりの意識の高揚方法

ビーチスポーツ研究会 委員

（敬称略）

座長：近藤 健雄（日本大学教授）
委員：瀬戸山 正二（日本ビーチバレーボール連盟副理事）
小峯 力（日本ライフセービング協会理事長）
調整中（日本フットサル連盟）
調整中（地方自治体）

7. 研究会の日程

14.6.25 第1回全体研究会 第1回里浜づくり研究会開催（合同）
）
14.7.12 第1回海辺の自然学校研究会開催
）
） 研究会を各2～3回開催
）
15.3月頃 第3回全体研究会

8. 研究会の運営方法

(1) 委員の出席

各部会の委員は、全体研究会の座長の求めにより、または、委員の自発により全体研究会にメンバーとして出席できる。

(2) 公開

研究会は、報道関係者へは公開する。